

# プロ野球1リーグ時代の読売大優勝旗 (1936 (昭和11)年~1949 (昭和24)年使用)

右下の記念写真後列で、大きな優勝旗を持つ青年がいる。沢村栄治だ。

撮影場所である洲崎球場は、その他4つの球場（注）と共に第二回全日本野球選手権試合——この大会が始めてプロ野球の日本一を決めた大会と言われる——の開催地となった。

同大会の優勝決定戦は1936年の12月9日から11日まで洲崎球場で行われ、大阪タイガースと東京巨人が白熱の試合を繰り広げたのち、2勝1敗で東京巨人が優勝した。

「連盟ニュース」第十號（昭和十一年十二月二十五日）には沢村について「三日連投のうち、此の日が最上の出来栄であった稀代の好投に、タ軍（ママ）の猛打者も空しく押へつけられて…（以下略）」とあり、その活躍ぶりが伺える。

巨人のエース、沢村は初戦に完投勝利、2戦目も先発するものの5失点で降板、1勝1敗で迎えた3戦目は巨人が勝ち越した後の5回からリリーフで登板、タイガース打線を抑え、巨人を初の日本

一に導いたのだった。

沢村が掲げるこの大優勝旗は、読売新聞が製作し、1936年から1949年まで副賞として使用された。

高島屋製で両面のデザインは同様、大きさは幅150cm、縦105cm（当館計測）である。

現在プロ野球ではリーグ優勝や日本シリーズ優勝の際にペナントが贈られており、こうした優勝旗が贈られることはないが、春夏の高校野球、大学選手権、都市対抗などで使用されているような、立派な優勝旗がかつて存在していた。

現物は1リーグ時代最後の1949年優勝チームである読売ジャイアンツから1959年の開館時に当博物館に寄贈された。

（注）甲子園、鳴海、宝塚、上井草各球場「THE OFFICIAL BASEBALL ENCYCLOPEDIA」(2004年刊) 4ページ参照

公益財団法人  
野球殿堂博物館  
学芸員 太田若葉



1936年東京巨人 優勝記念写真（洲崎球場）